

2021 年阜城会総会

第二部 オンライン鼎談

『 紆余曲折こそ人生だ！Around50～時代の変化と私たちの選択～ 』

東尚弘（40期）附中→附高

1997年 東京大学医学部医学科卒業後、聖路加国際病院内科系レジデント。

2005年 アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校公衆衛生大学院博士課程（PhD in Health Services）終了。



2005年 京都大学医学研究科社会健康医学系専攻医療疫学分野特任助手

2007年 国立がんセンターがん予防・検診研究センター検診研究部研究員

2009年 東京大学医学系研究科公衆衛生学准教授

2013年 国立がん研究センターがん対策情報センターがん政策科学研究部部長に就任

現在は、国立がん研究センターがん対策情報センターがん登録センター長（がん臨床情報部部長兼任）

1997年大学卒業後、診療の基礎訓練をみっちり受けるために聖路加国際病院に入職。厳しい研修には期待通りだったものの、医療の質が現場で評価されていないことに疑問を持ち、医療の質の評価を勉強するために2000年渡米して公衆衛生大学院で学ぶ。米国での勉学の面白さに魅了されて2年で帰国の予定を5年に延長して博士号を取得。滞在中に3人の子どもが生まれ、論文の数よりも子どもの数の方が多岐疑惑（事実）を指導教員に指摘される。帰国後は当初、京都大学の社会健康医学大学院に就職し、風邪への無駄な抗菌薬処方割合を算出、循環器の治療の適応の適切性基準作成・測定などの研究を行うが、周囲に全く理解されず意気消沈。そんな時に2007年、がん対策基本法が施行され、法律で新しく課題とされた「がん医療の質評価」の体制構築が必要とされたことから、国立がんセンターへ転職。以来、がん医療の質の評価を軸として、対象を拡大、がん対策全般の評価指標の設定や、全国の患者調査を行うなどのデータを出すことにつとめる。さらに国レベルでのがんの様々なデータの収集基盤の構築・運用などの仕事をしている。

勝間田智之（40期）附中→附高



1990年 高校3年生の時、国際数学オリンピック中国大会に日本代表として出場。

1991年東京大学進学。農学部林学科において、森林生態学を学ぶ

1997年NHKに入局。科学番組部のディレクターとして「サイエンスZERO」「ためしてガッテン」「ここが聞きたい！名医にQ」などの定時番組を担当したほか、宇宙・自然をテーマとした特集番組も手がける。

（代表作「NHKスペシャル 月と地球 46億年の物語」「南極観測50年 毛利衛 氷の大陸に行く」

「阿部寛の "宇宙への挑戦"」など）

現在は、平日（火～木）午後10時から放送している「クローズアップ現代+」のチーフ・プロデューサーとして、複雑な社会問題と日々格闘中。また職場ではダイバーシティ推進のプロジェクトも手がけ「育児や介護があっても働ける環境づくり」に取り組む。中1の息子の弁当を作ってInstagramにアップするのが日課。

関根友実（40期）附中→附高



1991年お茶の水女子大学文教育学部英語英文科入学

1995年朝日放送に入社。アナウンス部に所属し、バラエティ、社会情報系の番組を担当。

1996年全国高校野球選手権大会で、女性で初めて実況をする。5年間朝日放送で勤め、2000年妊娠・出産のため、退社。女兒出産後、フリーランスで復職。早朝番組「おはようコールABC」、報道情報番組「ムーブ！」で司会を担当。

2010年臨床心理士を目指し、大阪樟蔭女子大学大学院人間科学研究科臨床心理学修士課程に入学。臨床心理士資格取得。2018年公認心理師資格取得 現在はアナウンス業（朝日放送ラジオ「森脇健児のケンケン・ゴーゴー」のパートナーを務める）と並行して、社団法人おおさかメンタルヘルスケア研究所附属クリニック（心療内科・精神科）にて、

心理職としてカウンセリングや心理検査を担当する他、ストレスケアの研修や啓発活動を行っている。